

『スリム化』どころか、狙いは料金値上げ!?



日本共産党市議会議員

小田桐たかし

3月議会では、2014年度水道及び下水道事業に対する各予算案が審査され、賛成多数で可決しました（日本共産党は両案反対）。
下水道事業予算案のポイントは、15年4月から上水道事業に組織を統合させ、企業会計（※）の適用にむけた関係手続を進めることにあります。何故、いま「統合」なのでしようか。

流山市も含め下水道事業に企業会計を導入した自治体の共通した理由が「行政のスリム化」です。ところが、相模原市や奈良市では『独立採算』を理由に料金値上げを強行。一方、堺市では独立採算であっても、下水道法（下水道使用料徴収は維持管理のための経費分）を原則に、料金引き下げに力を注いでいます。
流山市下水道会計の借金は274億円（H26年度末）。予算案（42億円）の6倍超もあり、独立採算となれば料金値上げは免れないでしょう（下表参照）。
そもそも、これほど借金が膨らんだ理由は、TX沿線開

発の先行整備分が回収できないからです。しかもTX沿線開発における下水道整備事業は、まだ144億円分も残っていますから、より深刻です。
行政のスリム化は市民負担増の免罪符ではありません。市民の願いに沿った市政運営をさせましょう。

下水道会計【42億円】の内訳	
使用料収入	17億円
国費	4.3億円
一般会計からの繰入	11億円
市債	5.7億円

全国的に料金値上げが横行

※企業会計は、『地方公営企業法』に基づく会計処理のこと。自治体が、設置・経営する上・下水道、病院、交通などが対象。独立採算を強めることから、下水道事業は自治体の判断で適用させることができる。

統合進める14年度予算案可決 日本共産党は反対